

『三原色で描く静物水彩』

高知県立高知北高等学校 通信制
高野 留里

学校紹介・特色

本校には、多部制 昼間部・夜間部と通信制の三課程があり、狭い校舎を共同で使っています。通信制課程の生徒数は600名を超え、さまざまな入学動機や学習歴を持つ、10代から70代の幅広い年齢層の生徒が、それぞれの目標に向けて学んでいます。

通信制課程は単位制普通科で、3年以上の在籍と74単位以上の修得が卒業要件です。自学自習が基本で、教科書と学習書をもとに「レポート」と呼ばれる課題を仕上げ提出し、定められた期限内に教員の添削指導に合格すること、また2通りの時間割を週替わり（日曜と水曜に同一内容）で開催する「スクーリング」という面接指導（講義や実習）に計画的に出席して、期限までに定められた出席時間数を確保することといった条件がありこれらの条件を満たさなければ、年3回の試験が受けられず、その時点で履修あるいは単位修得ができなくなります。仕事や育児などの事情が原因の場合もありますが、自己管理や自学自習が難しい生徒もいるので、受講生は年度末には半減してしまいます。

芸術科目は音楽、美術、書道のⅠ・Ⅱ（各3単位）を置いています。2時間連続のスクーリングが各年間10日（計20時間）あり、そのうち12時間以上出席する必要があります。提出物は年間でレポート9回以外に3～4作品の制作を課し、定期試験3回（筆記式100点満点）の結果を合わせて評価しています。スクーリングへの出席は事前連絡の必要がないため、生徒は日によって出たり出なかったりして、予測がつかず、細かな授業計画は立てられません。

美術は課題についてもスクーリング中に制作する場合と、自宅で制作する場合があります。生徒がどちらでも選べるような題材にする必要があります。基本的に通信制での生徒と教員のやり取りは郵送が主ですので、郵送での課題作品提出にも対応しています。様々な問題や課題を抱える生徒が多く、教材費の集金にも苦慮する現状ですが、返金の必要がないように年間の材料費ぎりぎりの1000円を、なんとか徴収してやりくりしています。そのため、美術Ⅰでは苦肉の策として、三原色絵の具（透明）を用いて静物水彩に取り組んでいます。

〈美術Ⅰ〉年間計画 （全スクーリング時数20時間中、12時間以上出席が必要）

制作課題①「立方体デッサン」…コピー紙を組み立てて作った立方体をモチーフとして画用紙にデッサンする。

- 〃 ②「静物水彩」…ガラス容器、植物系（野菜、果物、花など）、布をモチーフにデッサンし、淡く着色。
- 〃 ③「ポップアップ・グリーティングカード」…A5サイズのケント紙と色画用紙を組み合わせ制作。
- 〃 ④「ドライポイント」…細かな線描写を生かした題材を考えさせる。（刷りは学校のプレス機使用）

+

年間9回のレポート（それぞれの課題に対応した内容で2～3回ずつ）

+

年間3回の定期試験（筆記式100点満点中20～30点配点の実技含む）

〈美術Ⅰ〉教材費1000円内訳（概算）

紙代（画用紙など）	230円
絵の具	300円
筆3本・筆入れ	410円
塩ビ版	60円





3色の絵の具だけで描いています。

静物水彩の課題について

美術 I では、始めに立方体のデッサンを課題として立体感や陰影のつけ方を学びました。その後、静物をモチーフとして三原色透明水彩絵の具で描く静物水彩画に取り組みました。三原色絵の具では、十分に混色できていない生の絵の具を使うと、色合いが悪くきつい色調になってしまいがちなので、その辺の指導を徹底する必要性を感じています。

減法混色・・・プリンターのインクでおなじみのC（シアン）、M（マゼンダ）、Y（イエロー）の三原色を混色すると、白以外のほとんどの色を作ることができます。この三色の絵の具を使って静物水彩を描くことで、混色の面白さや奥深さを体験することをねらいとしています。



生徒作品

